



オリーブニュース

北海道特別教区女性の会（オリーブの会）第13期 第3号

責任編集：会長 近藤雅子及び役員会 2015年12月14日発行

第13期活動方針：「信仰の継承」

主題： 祈り合い 支え合う、 学び合い 手を伸ばす

主題聖句：マタイによる福音書18章20節

「二人または三人が 私の名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである。」



アドヴェントに入りました。イエス様のご降誕を感謝します。

連盟役員研修会に出席して

会長 近藤雅子

去る11月18~19日、東京の吉祥寺にありますナザレ女子修道会エピファニー館におきまして、連盟の新役員が決まってから初めての5教区の役員が一堂に集まる役員研修会が行われ、北海道からも近藤、大賀、野口の三役が参加いたしました。これまでこのような会議は東京教会か市ヶ谷教会を使うことが多かったのですが、井の頭公園に隣接した閑静な住宅地という素晴らしい環境の中で、約2日間缶詰状態でじっくり話し合うことができました。

今年度の昆布がすでに各教会にお届けしたところでもあったので、昆布購入のお礼と今後のご協力のお願ひも致しました。北海道は他の教区に比べて人数が少ない現状に「それだけの人数でどうやって運営するの？」と聞かれましたが、昆布の販売に支えられていることも伝え、他の教区からのご理解も直接お話しすることによって深まったかと思ひます。

研修会は、各教区の現状報告、協力委員の実情報告とアピール、6月に行われた総大会の反省、また今後検討しなければならない課題等についての協議がなされ、非常に活発に意見が交わされて様々な視点の考え方を学ぶ機会となりました。他の教区は役員が一新されていましたが、北海道だけは昨年行われました総会において私が再選されたため継続して出席することとなり、前期の流れや問題点を幾ばくか掴んでいるため、北海道からの意見も活発に出すこととなりました。連盟としても、これからの歩みを進めるにあたり、有意義かつ必要な機会であったと思ひます。

全国の女性たちが一堂に介することは3年に1度しかありませんが、各個教会単位では出来ないことでも全国の姉妹がつながることにより、ACWC（リーストコインを集めてアジアの女性たちの働きを

支援している団体で、身近に感じる例でしょう)の働きなど、世界規模の支援の働きに参加することが出来るのです。

次回は明年6月仙台で会長会を行い、東北大震災から5年の現状も視察する予定ということでした。

私たちは一人ひとりでは小さな働きしか出来ないかもしれませんが、視野を広げ、つながりを持つことで、大きな輪となってキリストにつながる喜びを共有できるかもしれない、ということの大いに感じた研修会でした。

今年も「ルーテル昆布」でいろいろな働きが出来ました。



今年も77教会と1施設などたくさんのご協力をいただきました。9月と10月のバック・発送作業には延べ46名のご奉仕で、共に労する楽しい会でした。

収益からは、私たち教区女性の会へ活動費繰入と今年6月に行われた女性会連盟総大会出席者への旅費補助、三つの団体への献金(ブラジル教会バザーに昆布で支援、ルーテル学院大学・神学校後援会・女性会連盟)が出来ました。

これまで教区子どもキャンプへの支援も続けてきましたが、今年度、教区主催は無くなり、帯広教会は教会にお泊り会、札幌教会は日帰りキャンプとそれぞれ開催となったため、献金はなしとなりました。今後、情報を得てよい支援が出来ればと思っています。

9月実施の「道内女性会へのアンケート」にご協力ありがとうございました。

「あなたの女性会で工夫していることは？」

「私たちの出会いの場としてどんな会を用意したらよいでしょう」

「あなたの女性会の特色は？どのようなことを心がけていますか？」

この3つのことをお尋ねしました。帯広・函館・札幌の三つの女性会から「教区としてのつながりは大事にしたいが、実際のところ集まるのはなかなか難しい」とお答えが返ってきました。いずれ時機を見て集いをもちたいと役員会で検討していますが、別に気軽にコミュニケーションを取る手段として、各会長または担当者が携帯等で何気ない事柄を送り合う「ふれあいメール」を実施したいと考えました。

心を繋ぐ「ふれあいメール」始めます……教区会長と道内各女性会をつなぐ、同報メール……

12月7日付「第4回教区女性の会 役員会報告書」の協議2にありますように、

みんなに知らせたい、祈ってほしいetc などあったら、すぐケータイやスマホで同報メール、

写真も添付で送って…こんなこと始めてみませんか？

長い原稿をいただくより、それぞれの例会ですぐ取り上げられるし、広報紙「オリーブ」にも掲載可能で、例会に出られなかった方々とも共有できます。

実際の進め方は、道内各女性会宛の第4回役員会報告書に添付の案内文書をご覧ください。

CFJ=チャイルド・ファンド・ジャパン

わたしたちの里子エライサちゃんはフィリピンの小学校4年生。身長は約120cm。

家でもよく勉強するので、すぐに授業内容を理解出来る将来有望な優秀な女の子。今年も皆さまのご協力で、この1人分の里子の年間支援献金4万8千円を送ることが出来ました。札幌教会婦人会では普段の会員それぞれが捧げて下さる献金の他に、9月に「CFJ支援おにぎり食堂」を開催して大きなおにぎりを頬張り、男性も女性も自由献金。あっという間に思いがけない金額(1万円余)となりこれも合わせて教区女性の会に送金しました。

ルーテル教会がしている TNG(次世代支援)を知り、支援していきましょう

「春の全国ティーンズキャンプ」、8月の「ルーテル子どもキャンプ」・・・お聞きになったことがあるでしょう。あなたの教会の子供たちが参加したことがあるかもしれません。毎年参加した子供たちの熱い思いを綴じた「思い出集」も編集され各教会に届いています。けれども残念なことに、なかなかその存在が知られることがありません。

ちなみに8月の「ルーテル子どもキャンプ」は最初、婦人会連盟(現女性会連盟)が「少年少女国際キャンプ」として立ち上げ、やがて本教会宣教室 TNG 子ども部門へと移行されたものです。また青年たちの研修キャンプも実施され、幼児部門もお誕生日カードなどの工夫がされています。これらの活用や女性会で支援する方法を探っていきませんか？

札幌教会婦人会の12月の例会から

12月6日の礼拝後、うどん食堂の時間を楽しんでから例会を始めました。女性会連盟の聖書研究テキストに従って「コリントの信徒への手紙Ⅰ」3章10～17節を輪読し、この日の礼拝担当岡田牧師よりみ言葉を学びました。

この日はクリスマスを前に吉田姉がハーブの香り高いクッキーを焼いてきてくださって(下の写真をご覧くださいね)これをいただきながら、20日の祝会の献立と担当者を相談。



婦人会の総会は教会総会の一週間後と日程も決まり、総会資料の配布予定や教会行事を考慮しながらうどん食堂とおにぎり食堂(コンビニ注文の)を配分しました。

0姉から今年もめばえ幼稚園から園児たちの雪遊び用スパッツを40組制作(会員2人で20組づつ分担)したこと、婦人会にお礼の献金をいただいたことが報告されました。

元気に走り回る子供たちの動きに耐用するよう何度もミシンを走らせて丈夫に縫っていること、市販のものと違って足底部分が簡単に脱げないよう太い黒平ゴムをクロスさせて縫い付けているデザインであることなど実物をお見せしながらの説明です。5年目になりますが、来年度は、型紙を生地に写す作業を礼拝後などに幾人かで共同作業をしたいと提案もありました。



札幌教会のリストコイン献金袋。例会時にテーブルに順番に回して集めています。

後期分会費・感謝献金 CFJ 支援献金・サバ支援金・リストコイン・ACWC署名キャンペーンなどに、ご協力ありがとうございました。

感謝献金の総額は半分に分けて連盟感謝献金に送金と教区感謝献金として「北海道いのちの電話」にクリスマス前に送ることが出来ました。野口会計さん(札幌)は、間違いなく一つ一つ無事に終わることが出来てほっとしましたと語っていました。

空席になっていたもう一人の会計監査の方が決まりました。

函館の泉美和さん(函館の書記)が空席になっていたもう一人の監査役として負って下さることになりました。

12月31日が会計の締め日、年明け早々、会計は決算報告を作成して役員会に報告、書類一式を帯広に送り岡田ひとみ監査役に、次に函館に送って泉監査役に、それぞれ立会人を立てて監査していただくこととなります。

<これからの予定>

☆ **2/9 (火) 10時** 会場：札幌礼拝堂スオミホール
教区女性の会 第5回役員会

☆ **2/13 (土) 10:30~16:00** 会場：日本福音ルーテル東京教会 参加費無料、昼食各自持参
NCC (日本キリスト教協議会) 女性委員会主催フォーラム 「沈黙の声を聴く」

マルコによる福音書から～女性の視点で聖書を読む～絹川久子さんをお迎えして～

* 上京予定のある方にお奨めです。

* NCC 女性員会は毎年、教派を超えたクリスチャンの集い「世界祈祷日礼拝」を主催して式文を作り、世界各地の女性たちの現状を学び合い祈り合うきっかけを作っています。当日献金を厳しい境遇にある女性たちに捧げて支援し続けている団体なのもご存知ですね。

編集後記:.....

東京で行われた通算 11 回目になる女性会連盟の役員研修会は、活動方針の展開(会報・HPによる情報発信、聖書研究によるみ言葉の学び、感謝献金による国内外への宣教と支援、次世代への信仰の継承と伝道教育の奉仕支援、サバ神学生支援、震災支援)と持越しとなった提案事項(連盟役員・会長選出方法、正議員数についての見直し)について様々な意見が活発にかわされました。

それは、延いては女性会連盟の存在意義を一生懸命考えていくことに通じました。

会も終わりに近い頃、ある方が「女性会連盟って宣教をする団体・福音を具現化する団体だったんですね」と発言されていたのが印象的でした。人がいない、役員の手がいない等マイナス発言に絡めとられていくことが多い私たちですが、主が立たれたところをしっかりと心に刻んでいきましょう。クリスマスの喜びは私たちにイエス様が来てくださったという喜びですもの。(MO 記)

